

アーカイブ室新聞 (2011年3月24日 第441号)

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 東京天文台創設75周年記念前進座公演のチラシ発見**

アーカイブ室新聞第440号(2011年3月24日)「東京天文台百年史 資料の一部を収蔵-その2-」という記事を書いた。その中に「東京天文台創設75周年記念前進座公演パンフレット」があった。これが非常に興味深いので、これを取り上げて1号を発行したい。



写真1 チラシの表紙

昔の東京天文台ではこのような行事さえあったという記録のようなものに出会うチャンスを作りたいのである。東京天文台創設75周年は昭和28年(1953年)である。これは明

治 11 年（1878 年）9 月 3 日に東京大学理学部に観象台が置かれた年を起点にしている。

明治 15 年（1882 年）2 月には観象台が天象台と气象台に分離されている。東京天文台という名前が付いたのは明治 21 年（1888 年）6 月 1 日のことであり、東京大学天象台、海軍観象台、内務省地理局が統合され海軍観象台の地（麻布区飯倉）に置かれた時である。

東京天文台創立 75 周年記念式典が行われたのは、昭和 28 年（1953 年）10 月 29 日であり、それ以来東京天文台の記念日は毎年 10 月 29 日とされ、いろいろなイベントがあった。

そして今回発見したパンフレットといえるほどのものではなく、まあ、チラシのようなものだが、その翌日の 1953 年 10 月 30 日の東京天文台創設 75 周年記念の前進座の公演のチラシ（写真 1）である。

チラシの表紙には、東京天文台創設 75 周年記念 前進座 公演 1953 年 10 月 30 日（金）東京天文台クラブ主催と書かれている。

公演は二つあり、1. 谷間の駅長さん（写真 2）、2. 舞踊劇 勢獅子（山王祭礼の場）（写真 3）となっている。



写真 2 出し物「谷間の駅長さん」のページ

2. 舞踊劇 勢獅子

山王祭礼の場

〔作〕 三代目 瀬川如臯
振付 花柳徳兵衛

今から約九十何年前、嘉永四年四月に、江戸中村屋で初演されたもので、祭礼気分の極端した所作の佳呂で、おもしろい。

軽妙自在、祭礼にもち出される獅子頭をかぶって踊る勢獅子の舞踊は、まことに意氣と健康の表現と申せましょう。この度はいささか趣向を加えて、二人の勢獅子を踊る為頭が、一人の娘を自分の方へお嫁に貰おうとする處へ、娘の父親が出て、どちらでも踊りの上手の方へやろうという事になり、二人とも一段と一生けんめいに踊りぬくという事になりました。

役
 為頭 松三郎 生島五郎、伊藤屋 市川若五郎
 同 竹三郎 中村梅之助、娘 お梅 幸田桂子

先の時、突然工事場の方でダイナマイトが爆発しました。

先へ政やんが息せきって走ってきました。留やんが大怪我をしたのです。さあ大変、すぐ輸血のため町の病院まで運ばなくてはなりません。しかし視察団のくる時刻は迫ってくる。駅長さんはどうにか会社へ頼んで電話をかけますがその甲斐なく、命令だと云われればどうしようもありません。「見殺しにできるかよ、何とかしてやってくれ」とせまる村の人達——会社の命令と留やんの命との板ばさになった

駅長さんは.....

配	役
駅長さん	市川岩五郎
先の奥さん	幸田桂子
鉄さん	津田伸
吉野	鈴木孝太郎
光ちゃん	園部佐々江
正ちゃん	三由茂
留やんの女房	堤五十鈴
A	村瀬俊也
B	桂淳平
C	矢郷仁

写真3 出し物「勢獅子」のページ

もう長いこと、国立天文台ではこのような催し物がないが、筆者の知る東京天文台では東京天文台クラブという 100%の職員が参加した親睦団体があり、このような行事のときには中心になって主宰していた。古き良き時代とでもいうのだろうか。

国立天文台と名を変えた古い東京天文台の歴史の一端である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp